

⑩感覚・運動器系 3 (皮膚科・アレルギー科)

1. 研修目標

全身を系統立てて診察する能力を身につけ、全人的に医療を実践することを目的とする。さらに皮膚外科の技術を修得し、幅広い治療法を身につける。また、日常よく遭遇する皮膚科的疾患を経験しながら、重要な皮膚疾患の診断、検査法、治療法を習得する。

2. 研修指導体制

研修医には、指導医が1人つき指導するが、各分野（アレルギー、光線、腫瘍、真菌など）のグループ主任（准教授、講師など）、教授も指導に参加する。協力病院においては、とくに専門分野についての研修を行う。

3. 研修指導責任者 清水 和宏

4. 研修内容

- (1) 皮膚疾患の基本的知識と診断の方法
- (2) 皮膚病の治療法
- (3) 皮膚アレルギー疾患、膠原病の理解
- (4) 皮膚腫瘍の理解と手術手技の習得
- (5) 光線過敏症、炎症性角化症などの理解
- (6) 真菌症をはじめとする感染症の理解

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

初期診療能力の習得として、医師としての診療マナーを身につけ、医療面接法・病歴聴取法・身体的所見の取り方を習熟する。

5-2 経験目標

- (1) 皮膚の構造と機能
- (2) 皮膚病変の記載法
- (3) 皮膚生検の手技と応用
- (4) 皮膚科外用及び内服療法の理解
- (5) 副腎皮質ホルモン外用剤の適切な使用
- (6) 光線療法の適用
- (7) パッチテストなどの手技と理解
- (8) 膠原病の診断と免疫学的検査、治療
- (9) 皮膚悪性腫瘍の適切な診断と治療
- (10) 皮膚リンパ腫の診断と理解
- (11) 皮膚感染症の診断法、鏡検法